

TOHOKU
×
TAIWAN



東北農泊

地域の 取組事例集

台湾からの誘客促進編



2024



一般社団法人

全国農協観光協会



東北



CONTENTS [目次]

- はじめに 3
- 本事例集の狙い 4

第1章

活動内容

- 1-1 目標設定と活動計画策定 5
- 1-2 事前の情報収集 5
- 1-3 商談会の準備 8
- 1-4 展示会の準備 8
- 1-5 台湾での出展 10

第2章

出展を通じた 私たちの気づき

- 2-1 活動全体:まず挑戦しよう! 15
- 2-2 インバウンドのニーズ理解 16
- 2-3 商談会への参加 18
- 2-4 展示会への参加 21
- 2-5 出展した農泊地域の気づき 22

付録

- 青森なんぶの達者村
企画提案書 23

はじめに

平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に「滞在型農山漁村の確立・形成」が位置付けられ、特に訪日外国人旅行者を含めた農山漁村への旅行者の大幅増加による所得の向上や雇用の増大を図るため、日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ滞在である「農泊」を推進しています。

そのような背景のもと、「農泊」は、持続可能な農泊地域を創出する観点から、500地域創出を掲げた「草創期」から、「年間延べ宿泊者数を令和7年度までに700万人泊」とする目標の下、成果を示す「成長期」へ移行すべき段階にあると考えており、「農泊地域の実施体制を再構築」、「まずはわが農山漁村に来てもらう」、「いつも、いつまでも居て楽しめる農山漁村をつくる」という大きく3つの方向性を示しました。

今年度、一般社団法人東北観光推進機構が主催する台湾「日本東北遊楽日」の商談会・展示会に出展しました。本事例集では、「まずはわが農山漁村に来てもらう」ために、台湾の旅行会社や学校にどのような準備をし、アクションを取ったのかということの時系列で紹介しています。

いま台湾をはじめとするインバウンド誘客に取り組んでいる農泊地域の皆様や、一緒になって取り組んでいる皆様にとって、本事例集が農山漁村地域の発展・活性化推進の一助となれば、幸いです。

農林水産省 東北農政局
農村振興部 都市農村交流課





本 事例集の狙い

『令和6年度東北農政局農泊促進プロモーション』事業では、一般社団法人東北観光推進機構のご支援を受け、令和6年12月に台北市で開催された第10回日本東北遊楽日に出展しました。このイベントは、旅行会社や教育関係者と商談する個別相談会（12月6日）と一般来場者向け展示会（12月7日、8日）から構成されており、台湾の皆様には東北の農泊地域を訪れていただき、農泊の魅力を感じてもらうために、本会は後述する4つの農泊地域と協力してプロモーション活動を行いました。

私たちにとって、海外での農泊プロモーションは初めての経験であったため、試行錯誤の連続であり、様々な気づきがありました。この事例集は、私たちが行った一連の活動と気づきを順を追って紹介し、農泊地域の皆様はさらに一歩前進するための踏み台にさせていただくことを目的としています。

台湾からのインバウンド受入経験が豊富な地域にとっては当たり前のことも多いと思いますが、ぜひ私たちの失敗談や試行錯誤のエピソードをご笑覧いただき、皆様の今後の活動にお役立てください。

一般社団法人 全国農協観光協会

※本書は「東北農政局 令和6年度農泊促進プロモーション事業」を活用して作成しました。

第1章

活動内容

この章では、幾つかの農泊地域の協力の下、私たち全国農協観光協会が日本東北遊楽日2024 Tohoku travels will continueの個別相談会(商談会)と展示会に出展した全活動を紹介します。農泊地域の皆様が商談会や展示会に出展される場合に、どんな準備をすればよいか参考にいただければ幸いです。



1-1 目標設定と活動計画策定

私たち全国農協観光協会は、日本国内でインバウンド誘客を支援した経験、海外で農泊とは異なる分野の業務経験はありますが、海外で農泊プロモーションをした経験がありませんでした。そこで、私たちはまず、出展に向けた目標と活動計画を作りました。

商談会

目標

翌年度向けツアーの見積依頼を3件以上獲得する。

活動

- ① 旅行会社等にオンラインミーティングを打診してニーズを聞き出す。
- ② ニーズ紹介セミナーを開催し、商談会に参加する農泊地域を募集する。
- ③ 旅行会社等からの助言に基づいて商談会用の資料を準備し、商談会に臨む。

展示会

目標

農泊コンテンツの予約を獲得する。

活動

- ① 展示会で紹介したい農泊コンテンツを全農泊地域から募集する。
- ② 農泊コンテンツの紹介展示物や配布物を準備し、展示会に臨む。

1-2 事前の情報収集

商談会や展示会で成果を得るためには、これらのイベント前に台湾の旅行業界や日本へのニーズを知り、相手の期待に応える準備をすることが重要だと考えました。そこで、事前情報の収集を試みました。

(1) 台湾旅行会社等のコンタクトリスト作成

当初、商談会には台湾の旅行会社が招聘され、一般観光と教育旅行を中心に商談が行われる予定でした。私たちは、以下の順に関係者をあたり、旅行会社を中心に計80団体のコンタクトリストを作りました。

01 各県の農泊担当者や 観光担当者から コンタクト先の情報収集

各県は現地にコーディネーター（営業活動の仲介役）を有償で配置。コーディネーターは仲介を生業としており、無償での情報提供は困難。



02 東北観光推進機構から コンタクト先の情報収集

農泊について営業活動するのは今年度の商談会が初めてであり、農泊に関心を示す可能性がある具体的なコンタクト先は現時点では不明。農泊は教育旅行との親和性が高く、商談会では教育旅行向けに出展するのがよいとの助言。

03 日本政府観光局 (以下JNTO)から コンタクト先の情報収集

JNTOは政府機関であり、個社に対するコンタクト先提供は行っていない。教育旅行は農泊との親和性が高いが、一般的に台湾での教育旅行では学校交流が求められ、台湾の学校関係者が訪問先を決定する。旅行会社よりも学校関係者とコンタクトの方がよいとの助言。

04 国内旅行会社からの 情報収集

本会と繋がりのある株式会社農協観光に相談。付き合いのある旅行会社や過去の商談会で知り合った旅行会社約20社の担当者について紹介を受けた。

05 WEBサイトや 出版物からの情報収集



台湾には1,000以上の旅行会社があり、全社にコンタクトすることは不可能と判断。そのため、(A)WEBサイトでよく出てくる大手・中堅旅行会社のうちemailアドレスが分かる会社、(B)日本国内(特に関東)に営業窓口がある旅行会社、(C)台湾からの誘客に強みのあるコンサルタントやコーディネーターに絞って、約60社のコンタクトリストを作成。

(2) 旅行会社等とのオンライン協議

作成したコンタクトリストに基づき、各団体にメールを送付し、オンライン協議を打診しました。私たちは繁体字でメールを書くことができないため、まず日本語の文書を作り、これを翻訳アプリで繁体字と英語に翻訳して、①繁体字(チェックなし)、②英語(私たちで内容確認)、③日本語の順に併記してメールを送りました。

メールの内容

突然のメールでのご連絡失礼いたします。私、全国農協観光協会の●●と申します。

私達は、今年度、農林水産省東北農政局の支援を受けて、今年12月に台湾で開催が予定されている「日本東北遊楽日」に参加し、東北地方で農泊(農山漁村滞在型旅行)に取り組む団体の商談を支援することになりました。主な目的は、台湾から日本へのアウトバウンドに取り組む台湾旅行会社と農泊地域をマッチングし、次年度以降の東北地方での旅行商品の造成・販売につなげることです。

そこで、まずは台湾の旅行会社が東北での旅行商品を造成するにあたり、どのような情報を求めているか、またどのような体験や宿があると良いかなど台湾旅行会社のニーズをお伺いしたく、ご連絡差し上げた次第です。

つきましては、貴社からお話を伺いたく、オンラインでの打ち合わせ機会を約1時間いただければ幸いです。

例えば、●月●日以降でご都合の良い日時をお聞かせいただけませんか。

添付にて本会の案内と本事業概要をお送りいたします。

貴社がご関心を持ち、ご連絡いただけますことを切に願っております。

その後、オンライン協議に応じてくれた旅行会社等に対して、それぞれ約1時間をいただき、各社の特徴とニーズ、農泊に対する期待、商談会に向けた注意事項を聞き出しました。

オンライン協議に応じてくれた旅行会社は全て日本語で会話可能であり、各社の事情を踏まえて正直な話をしてくれました。農泊に対するニーズ等は後述しますが、台湾の事情を知らなかった私たちにとって、とても参考になる意見をいただきました。

コラム

台湾の学校教員の海外教育旅行の経験不足

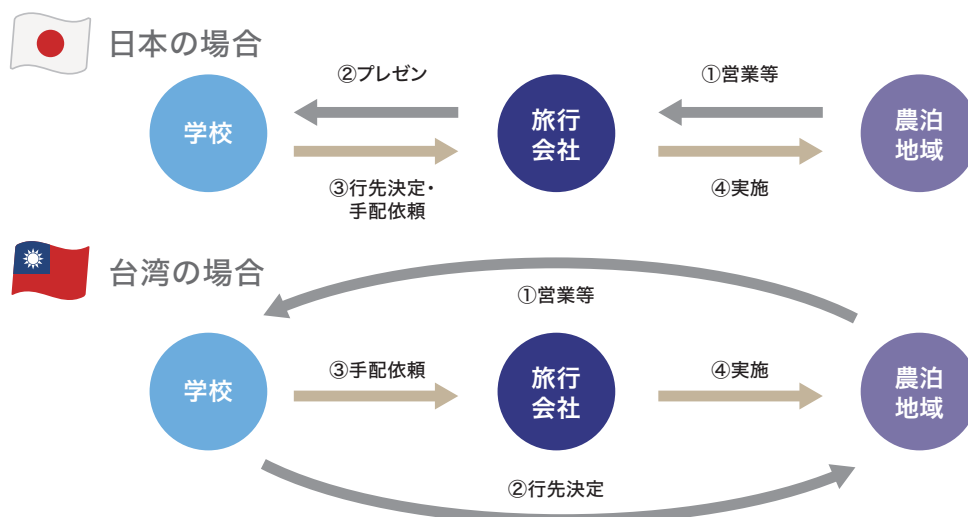
訪問した台湾の旅行会社からコロナ禍によって海外への教育旅行ができずに、これから再開しようとする学校があり、旅行会社に学校交流ができる地域の情報を聞かれることがあるとの話を聞きました。

そのため、企画提案資料を台湾の旅行会社に送っておくだけでも、提案してもらえるケースがあるため、お付き合いのある旅行会社には、定期的に提案資料を送ると良いでしょう。

コラム

教育旅行の実施における日台の違い

日本と台湾では教育旅行の行先決定のプロセスが以下の通り、異なります。



日本の場合は旅行会社が学校にプレゼン等をして行先が決まる場合が多いですが、台湾の場合、行先は既に決まっており、その手配だけを旅行会社に依頼するケースが多いため、直接学校との繋がりを作ることが重要です。

(3) ニーズ説明会の開催と商談会への出展募集

旅行会社等からいただいた助言を農泊地域の皆様にお伝えし、台湾での商談会出展を呼びかけることを目的として、オンラインでニーズ説明会を開催しました。

本会による代理営業を含め8月に出展を募集し、4つの農泊地域から応募していただきました。

- > 青森県 青森なんぶの達者村
<https://tassyamura.com/>
- > 岩手県 山形町農泊推進振興協議会
<https://nohaku.net/council/council-4497/>
- > 宮城県 食農体験ネットワーク登米協議会
<https://www.izunuma.work/council>
- > 秋田県 仙北市農山村体験推進協議会
<https://semboku-gt.jp/>



[青森県]
青森
なんぶの
達者村



[岩手県]
山形町
農泊推進振興
協議会



[宮城県]
食農体験
ネットワーク
登米協議会



[秋田県]
仙北市
農山村体験
推進協議会

(1) 商談会に向けた支援希望の確認

商談会への出展を決めた農泊地域に対して、商談資料の準備を含む支援の希望を確認しました。各農泊地域は商談会への参加経験が異なり、準備状況に大きな差がありました。

01/ 特段の支援を必要としなかった地域**仙北市農山村体験推進協議会**

この協議会は過去に台湾向けに教育旅行等の商談に何度も訪れており、商談経験が豊富でした。確認したところ、これまで使用してきた繁体字対応のパンフレットが幾つかあり、これらを組み合わせ活用するとの回答を得たため、特段の支援は行いませんでした。

02/ 特段の支援を必要としなかった地域**食農体験ネットワーク登米協議会**

この協議会は台湾での商談経験はないものの、商談会自体には何度も参加しており、日本語と英語で取りまとめた一綴りの説明資料がありました。資料の翻訳も同協議会で対応するとの回答であったため、特段の支援は行いませんでした。

01/ 支援要請があった地域 (助言と翻訳)**青森なんぶの達人村**

この協議会は商談経験があり、説明資料を独自に準備できるが助言が欲しいとのことでした。そのため、旅行会社等から得た情報に基づき資料に記載すべきポイントをお伝えしながら一綴りの説明資料を作成してもらうとともに、資料の翻訳を支援しました。

02/ 支援要請があった地域 (資料作成と翻訳)**山形町農泊推進振興協議会**

この協議会は商談会への参加経験が少なく、日本語パンフレットが幾つか用意されていた状況でした。商談会の限られた時間で説明するには別途説明資料を作成することが適切であったため、一緒に説明資料を作成することになりました。

(2) 説明資料の作成支援

支援要請があった2農泊地域に対して、商談会で用いる説明資料の作成を支援しました。食農体験ネットワーク登米協議会の資料がとても上手に作られていたため、これを参考として2農泊地域の説明資料を作りました。

(1) 展示会で紹介したい農泊コンテンツの募集

展示会は、一般来場者に向けて東北の農泊地域とそこでの楽しみ方をお伝えし、予約に繋げる絶好のチャンスでした。商談会とは異なり個人や家族、小グループが対象となることから、全農泊地域に対して展示会で紹介したい農泊コンテンツをメールで募集しました。応募にあたっては、①農泊コンテンツ名(体験または宿泊)、②コンテンツの魅力紹介文(100文字程度)、③魅力が伝わる写真、④予約サイトのURL(できれば繁体字)が必要でした。

応募した農泊地域は13地域、合計26コンテンツを紹介することになりました。

農泊コンテンツ名		農泊地域名	予約サイト
宿泊コンテンツ			
1	古民家泊 柚子のあぜ道 雨乞のかえる	柴田町里山ビジネス振興協議会	日本語のみ
2	古民家泊 MARUKI齋福	柴田町里山ビジネス振興協議会	日本語のみ
3	蘋果工房北田・蔵之宿FROGBEE	盛岡市グリーン・ツーリズム協議会	繁体字対応
4	秋田の暮らしを体験！～農山村体験～	仙北市農山村体験推進協議会	英語対応
5	文豪(太宰治)ゆかりの古民家で貸切り宿泊	かなぎ元気倶楽部	繁体字対応
6	世界遺産のまち・平泉に佇む1棟貸しの宿 平泉倶楽部～FARM&RESORT～	平泉一関エリア農泊推進協議会	繁体字対応
7	青森蔵泊 ～百年前の津軽～	青森県黒石田舎暮らし協議会	繁体字対応
8	地元食材の手作り料理！農園やい子ばあちゃん	石川町農泊推進協議会	繁体字対応
9	山形県でありのままの田舎暮らしを体験	山形県グリーン・ツーリズム推進協議会	英語対応
10	遠野里山ホップサイクリング ～宿泊/ガイドツアー～	遠野ふるさと体験協議会	英語対応
11	ありのままの遠野の暮らしを体感する 「農家民泊」	遠野ふるさと体験協議会	英語対応
体験コンテンツ			
12	【Be a SAMURAI】甲冑着付体験プラン	株式会社GM7	繁体字対応
13	【Be a SAMURAI】映画撮影プラン	株式会社GM7	繁体字対応
14	【Be a SAMURAI】仙台まち歩きプラン	株式会社GM7	繁体字対応
15	アンティーク着物で角館の武家屋敷通りを散策 ～着物着付け体験～	仙北市農山村体験推進協議会	英語対応
16	水深日本一の田沢湖に漕ぎ出そう！ ～カヌー&カヤック～	仙北市農山村体験推進協議会	英語対応
17	秋田の郷土料理作り～きりたんぼ作り体験～	仙北市農山村体験推進協議会	英語対応
18	秋田犬と森林散歩～四季を通じて自然を楽しむ～	三種町農泊推進協議会	繁体字対応
19	頑張らず、楽しく歩いて気軽に健康づくり！ クアオルト健康ウォーキング	三種町農泊推進協議会	日本語のみ
20	平泉倶楽部～FARM&RESORT～ 南部神楽鑑賞	平泉一関エリア農泊推進協議会	繁体字対応
21	平泉倶楽部で地元のお母さんと一緒に郷土料理体験	平泉一関エリア農泊推進協議会	繁体字対応
22	伊豆沼・内沼エコツアー 「渡り鳥観察、はすまつり」	くりはらツーリズムネットワーク	繁体字対応
23	栗原の暮らしに触れ、地元食を満喫 (レンコン収穫、そば打ち体験)	くりはらツーリズムネットワーク	繁体字対応
24	世界にひとつだけの作品づくり (ミニ畳、しめ飾り、ひょうたんランプ)	くりはらツーリズムネットワーク	繁体字対応
25	「伊豆沼・内沼」の風土× FOODが楽しめる自然体験ツアー	食農体験ネットワーク登米協議会	英語対応
26	久慈の魅力を全身で体感 「体験プログラムとエコツアー」	一般社団法人久慈市ふるさと体験協会	日本語のみ

(2) 展示物・配布物の準備

農泊地域からいただいた情報に基づき、各農泊コンテンツのA2パネルとA2パネル縮小版の名刺を作成しました。名刺は、ブース来場者が後日予約できるよう持ち帰っていただくため、そしてノベルティとして配布することを目的としました。

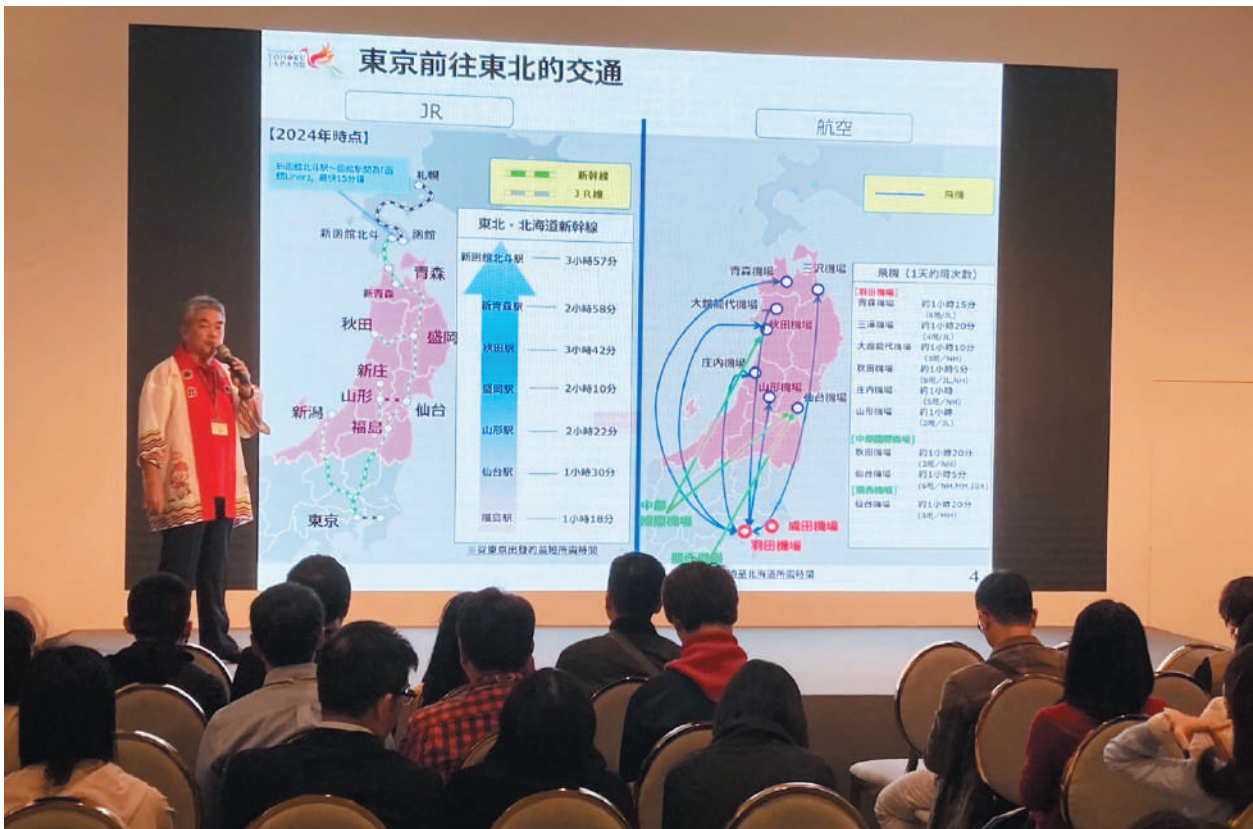


展示パネルの例

1-5 台湾での出展

(1) 商談会

商談会は12月6日に開催され、4農泊地域が5ブース（一般観光1ブース、教育旅行4ブース）に分かれて出展しました。一般観光では主に旅行会社が参加する一方、教育旅行では主に小中高の学校団体が参加し、農泊地域等が構えるブースを訪問する形式でした。いずれも事務局主導による事前マッチングはなく、3時間の相談時間が与えられました。



東北全体の教育旅行プレゼン

一般観光では仙北市農山村体験推進協議会が11社の旅行会社と商談、教育旅行での各農泊地域による商談件数は下表のとおりでした。

農泊地域名	商談件数					
	小学校	中学校	高校	職業校	その他	合計
青森なんぶの達人村	2	2	0	2	1	7
山形町農泊推進振興協議会	2	5	0	1	2	10
食農体験ネットワーク登米協議会	6	6	0	0	3	15
仙北市農山村体験推進協議会	1	5	0	0	2	8



青森なんぶの達人村



山形町農泊推進振興協議会



食農体験ネットワーク登米協議会



仙北市農山村体験推進協議会



会場全景

コラム

相手のニーズに合わせた学校交流プログラムの提案

生徒同士が課題解決に向けたワークショップを行うというだけでは既に実施されていることもあり、あまり効果的ではありません。

例えば、台湾の学校が国際交流に力を入れているのか、またはスーパーサイエンス校等指定校になっているのかなどの科目に力を入れているのかを把握した上で、それに対応する学校交流のプログラムが提供できると効果的だと気付きました。

コラム

台湾の学校との繋がり方(一例)

台湾の学校との繋がりを作りたいけど、どうしたら良いか分からないという方もいらっしゃるかと思います。一例になりますが、きっかけ作りとして以下の活用を検討してみたいかがでしょうか。

● 姉妹都市となっている台湾の市町村への営業

自地域が台湾の市町村と姉妹都市になっている場合、チャンスがあるかもしれません。自治体経由で学校を紹介してもらおう等相談をしてみましょう。

● 商談会への出展

費用が掛かってしまいますが、東北観光推進機構等が行う商談会に出展することによって一度に多数の学校と繋がる可能性があります。

● 現地プロモーション会社からの紹介

こちらも同様に費用が掛かってしまいますが、訪日旅行を事業としている台湾のプロモーション会社が多数あるため、そこに依頼することも一手です。



(2) 展示会

展示会は、商談会の翌日から2日間開催されました(12月7日、8日)。商談会に参加した4農泊地域にも協力していただき、農泊ブースで一般来場者に向けて東北の農泊の魅力をご紹介しました。



本ブースの出展者



入場希望者の列



屋外イベント



ブース来場者への説明



ブース内の状況

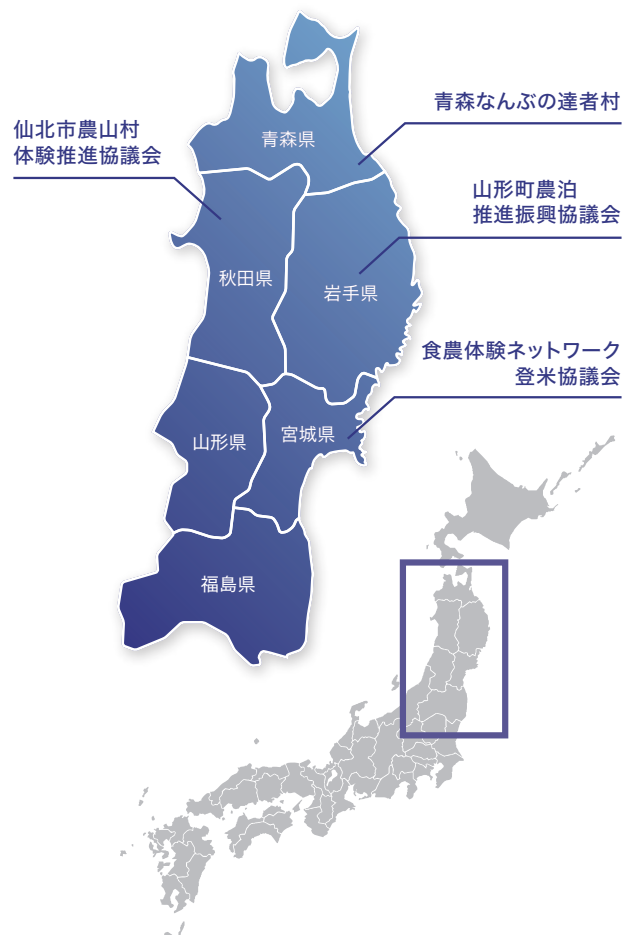


ステージ発表の様子

東北観光推進機構によると、2日間の来場者総数は95,765名であり、うち約1,000名が本ブースに入場しました。両日も先着者へのプレゼントがあったため、午前の方が来場者が多い傾向でした。

来場者の多くは、イベントでもらえるノベルティを期待している様子でした。私たちはコンテンツ紹介名刺各500枚に加え、野菜消しゴム(りんご、桃、落花生等を計6種類、各100個)を用意していましたが、消しゴム目当ての来場者が多数を占め、両日も消しゴム配布開始後2時間以内に300個の消しゴムがなくなり、その後はブースがやや閑散としました。

消しゴムと引き換えに、Googleフォームを使って来場者による農泊コンテンツの人気投票をしてもらいました。しかし、多くの来場者が適当に回答したため分析できませんでした。



展示会の様子

出展を通じた私たちの気づき

この章では、一連の活動を通じて私たちが気づいたことについて、紹介します。気づきの中には、台湾以外にも応用可能なインバウンド誘客への取組、日本にも共通する取組も含まれています。皆様の農泊地域の準備状況や取組内容にあわせて、役立てていただけることを願っています。

2-1 活動全体:まず挑戦しよう!

今回の出展を通じて、経験がなくても、準備が整ってなくても、やはり挑戦することが大切であり、この挑戦から多くが得られることを再認識しました。ここでは、3つのエピソードを紹介します。

Challenge

01

海外からの受入経験がない山形町農泊推進振興協議会の挑戦

同協議会は、海外からの受入経験も海外での商談経験もありませんでした。しかし、現状を改善するために果敢に挑戦することを決めた結果、当初は諦めかけていた台湾での商談会参加を実現し、商談会で今後も使える資料を取りまとめることができました。

出展により、台湾の学校関係者のニーズを肌で感じることができたことに加え、次年度に向けて現在も台湾の学校を受け入れるための話し合いを続けています。

他の農泊地域も同様です。秋～冬にかけて多忙な時期に、商談会への準備を進めました。全ての農泊地域が、一定の手ごたえと今後に向けた改善点を明確に意識されていました。

Challenge

02

展示会で農泊コンテンツ紹介に協力してくれた農泊地域の挑戦

展示会で紹介する農泊コンテンツを募集したのは、秋の受入で忙しい10月初旬から2週間でした。メールや個別の電話連絡、必要に応じてオンライン協議を行い、最終的に13地域から計26コンテンツを台湾の皆様を紹介することができました。一部は、展示会中に予約に繋がったようです。

今回は予約に繋げることを目指していたため予約サイトが必須であり、特に繁体字サイトを推奨していました。しかし、幾つかの地域から「日本語や英語サイトがあるので、これでも販売に繋がるか実験して欲しい」との声があり、繁体字以外のWEBサイトでも紹介することになりました。挑戦することを決め、声を上げてくれたからこそ実現しました。

Challenge

03

海外での営業経験がない私たちの挑戦

私たちに海外での営業経験がなかったことは、先にお伝えしたとおりです。この状況において、私たちは台湾での商談会や展示会への出展を決め、台湾のことを調べながら準備を進めました。申し分ない成果が得られたと胸を張ることはできませんが、特に台湾の教育旅行の事情や商談の進め方に幾分詳しくなり、今後同様の業務をする上で貴重な知見が得られました。

(1) 相手にされないことを覚悟して、どんどんアタックしよう！

台湾のニーズを調べるにあたり、私たちは様々なルートからコンタクト先を収集し、手当たり次第にメール・電話で連絡を取りました。結果として、ほとんどの会社から相手にされませんでした。数社がオンライン協議に応じてくれました。

メールや電話で相手にされないのは精神的にタフな作業ですが、数を打てば、真面目に応じてくれる相手に巡り合うことができます。

現場に赴いて直接営業したのに空振りしたのでは精神的にも費用面でも負担が大きいです。emailや電話であれば少ない負担で済みます。打率を求めず、相手にされないのが当たり前と割り切って、どんどんアタックすることをお勧めします。

(2) 付き合いのある旅行会社や県からコンタクト先を紹介してもらおう！

オンライン協議に応じてくれた旅行会社等には以下の特徴がありました。特に、以下①、②はとても重要だと感じました。農泊地域の皆様が普段から付き合いのある旅行会社に加え、県の農泊・観光担当者であれば、きっと相談相手をご紹介いただけるはず。紹介の有無は打率に大きく影響します。ぜひ、コンタクト先を紹介してもらってください。

オンライン協議に応じてくれた会社の特徴

①コンタクト先の担当者に対してメールを送っていた

旅行会社の「ご担当者様」宛に送ったメールはほぼ無反応（打率5%以下）でしたが、担当者のemailアドレス宛に送った場合には打率が約15%でした。旅行会社のお問合せ窓口には、毎日似たような営業メールが多数届いており、よほど目を引くタイトルと内容でない限り、そのままゴミ箱行きするようです。

②紹介を受けた、または、電話で事情を説明した

日本支所には電話で日本語で事情を説明し、メールを送りました。上記と関係しますが、以前に会っていたり、電話等で直接話した場合には、怪しい者ではないことが伝わり、応じてくれやすいようです。打率は約20%でした。

③中堅旅行会社であり、

特定のコンテンツを探していた

中堅旅行会社のうち教育旅行や特殊な社員旅行（インセンティブ旅行）を扱う旅行会社から返信を受けました（打率5%程度）。農泊は、普通の観光がしたい一般旅行者に向けて大量販売する大手旅行会社よりも、ニッチなニーズに対応する一部の中堅規模の旅行会社に関心を示すようです。



(3) 台湾における農泊ニーズ

私たちが台湾の旅行会社等から伺った限りでの、台湾における農泊ニーズを以下に示します。台湾からの特に団体旅行の誘客に取り組んでいる農泊地域の皆様におかれては、これらのニーズに対応できる準備ができていないか、ぜひご確認ください。

1 | 台湾旅行会社の農泊ニーズ

- 4泊5日～5泊6日のバス1台(30名前後)を対象としたツアーに期待
- 旅行タイプでは、①教育旅行、②インセンティブ旅行、③個人・小グループ旅行のそれぞれに農泊ニーズあり。
- 大手旅行会社(パッケージツアー販売)は業務効率と知名度から農泊への関心が低く、リピーターを抱える中小旅行会社が有力な販売候補。

2 | 台湾旅行会社の農泊地域に対する要望

- **手配** 地域に一元的な予約・相談窓口があることを希望。
教育旅行では学校交流が必須であり、この調整も期待されている。
- **宿泊** 特殊ケースを除き、農家民宿泊は1泊のみ。ホテルや温泉旅館泊を希望。
温泉は旅行タイプに関わらずニーズが高い。
- **食事** アレルギー・ベジタリアン対応が必須(特に、牛肉抜きへの対応は全ての旅行会社が言及)。
参加者全員で食事できる場所も欲しい。
- **体験** フルーツ狩りを除く農業体験はあまり好まれない印象(教育旅行では可)。
旅行タイプに関わらず、文化体験(お茶、着付け、工芸品づくり等)のニーズが高い。
- **地域の特徴** 旅行タイプに関わらず、地域の特徴や他地域との違いを明確に示すことが重要。
特にゴールデンルートとの差別化が期待されている。

3 | 訪日教育旅行特有の農泊地域に対する要望

- **地元学校・教育委員会との連携** 教育旅行の場合、地元学校との連携・調整が必須。
- **体験コンテンツ** 農村生活体験という紹介では、十分な訴求にはならない。農業体験は労働と受け止められる可能性があり、あまり好まれない。そのため、地元の文化・ハンドメイドの体験があるとよいほか、生徒が一堂にできる体験もあるとよい。
- **テーマ性** 教育旅行では、学校交流を含め教育テーマの設定が求められる。教育的観点から、農泊地域のコンテンツを再整理し、学校交流でも一連のテーマに沿った意見交換ができる機会を設定することが望ましい。
- **その他** 文化を知る・交流を図るという観点から農家民宿のニーズはある。安全性の観点から、分宿する各農家民宿の位置図(距離感の把握)もあるとなおよい。

4 | インセンティブ旅行特有の農泊地域に対する要望

- **他地域と差別化できるコンテンツ** 教育旅行と同様、農業体験では売りにならず、より日本の文化が体験できるようなコンテンツ(着付け、伝統芸能、伝統料理等)がよい。
- **社員研修としての魅力づくり** インセンティブツアーでは、社員を労う楽しさに加えて、会社としての「学び」も地域への訪問意欲向上につなげることが可能である。

5 | その他関連情報

- 教育旅行は台湾の学校側の要望によって方面が決まる。インセンティブ旅行でもオーガナイザー(主催者)の意向によって方面が決まるため、旅行会社から方面を提案できるケースは限られている。
- 一般的な訪日旅行の期間は4泊5日～5泊6日となり、全ての行程を同じ地域で過ごしてもらうことは団体旅行では現実的に難しい。このことから、農泊地域では1泊2日のカセットプランや各体験・宿泊施設の情報を体系化し、旅行会社へ定期的に情報提供することが必要だと思われる。



2-3 商談会への参加

(1) 商談会の説明資料

私たちは農泊地域が商談会に参加するにあたり、商談会用の説明資料作りを支援しました。以下では、教育旅行向け説明資料作りにおけるステップと工夫点をご紹介します。

STEP 1

説明資料の方針決定

1 説明時間の設定 日本語で10分以内で説明する

商談会にはブースが多数出展し、各ブースでの説明時間は20分程度になることが分かっていました。通訳を交えると説明時間は倍になるため、「日本語で最大10分で説明できる分量にすること」を決めました。

2 資料数 一綴りの説明資料にする

商談会ではブースが多数出展し、各ブースで資料を受け取ります。資料がバラバラだと説明に時間がかかる上、他ブースの資料と混ざり、後で見返していただくことが難しくなります。そのため、説明資料は一綴りにすることにしました。

3 構成 説明資料と参考情報に分類する

10分以内で説明するためには内容を厳選する必要があります。しかし、相手は東北や農泊地域についてほとんど情報がありません。そこで、説明する資料と参考情報に分類し、説明資料を最低限の内容に絞ることにしました。

4 説明資料の内容 特徴、モデルコース、参考料金、予約手続き

旅行会社からのニーズを踏まえ、説明資料における説明順序と内容を決め、これ以外の情報は全て参考情報としました。

- 1) 地域の特徴: 教育旅行受入において、他地域と比べて何が異なるのか。
- 2) モデルコースの内容: 学校交流を含む自信のあるモデルコース。
- 3) 予約までの手続き

STEP 2

地域の特徴の明確化

一般的に地域の特徴では、立地、自然・社会環境、歴史や伝統文化について触れますが、今回の商談相手は台湾の方々であり地名等の固有名詞を知りません。また、ゴールデンルートとの差別化、教育旅行としての価値が大切との指摘を受けていました。そこで、協議会と話し合い、地域の特徴を以下のように絞りました。なお、地域の特徴はできるだけ写真で伝えることを意識し、文章は補足程度に加えることとしました。

① 青森なんぶの達者村(農業体験、農家民泊、多様な学校交流に強み)

- ・ ベースは農業体験と農家民泊。青森の農家暮らしを知る。
- ・ 依頼があれば学校交流やホテル泊も可能
- ・ 多様な食&宗教対応
- ・ 充実したサポート

② 山形町農泊推進振興協議会(豊富な自然体験、農家民泊と200名までの集団泊に対応可能)

- ・ 豊かな自然を活かした体験メニューが充実
- ・ 田舎暮らしで「こころこころの交流」を!
- ・ 教育旅行の受入地域として高評価

STEP 3

モデルコースの設定

次に、協議会で最も自信のあるモデルコースを作りました。台湾からの教育旅行は30~40人の団体であり、学校交流を含むこと、1地域での滞在は長くても2泊までが一般的です。そこで、30人程度の団体を想定し、学校交流を含む1泊または2泊のモデルコースを用意し、人数を設定して金額を概算しました。また、できるだけ写真を配置し、文章は極力控えました。

STEP 4

予約手続きの整理

「メールや電話でお問合せ」という案内がよく見られますが、簡単な問合せであっても、受入手配を依頼する側にとっては抜け漏れがないように考える必要があり、面倒に感じるものです。そのため、青森なんぶの達者村ではGoogleフォームで簡単なお問合せシートを作成し、お問合せから契約に至るまでの手続きを整理し、これを説明資料に加えました。山形町農泊推進振興協議会では、お問合せフォームまでは作れませんでした。契約までの手続きを示すとともに、予約における注意事項を記載しました。

STEP 5

参考情報の準備

旅行会社等からの事前情報に基づき、商談会での問合せに即座に対応できるよう以下の参考情報を準備しました。

- ① 農泊地域の紹介: 立地、自然環境、歴史・文化等。
- ② 受入における安全管理体制
- ③ 体験プログラム一覧: モデルコースのオプションを提示するため。
- ④ 料金計算表のEXCELフォーム: 体験プログラムの入れ替えや人数増減に対応するため。
- ⑤ バス料金表のEXCELフォーム(最低料金のみ): 受入規模、距離、時間で変動。
- ⑥ 農泊地域周辺の観光情報と地図: 台湾の学校は受入地域だけを訪れるわけではないため、隣接県も含めた地図を用意しましょう。

※この情報は、各県の観光部局等から入手可能です。

(2) 商談会に向けた注意点

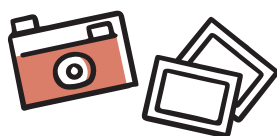
商談会の説明資料作りと商談会当日での活動を通じて感じた注意点を以下に列挙しました。商談会中だけでなく、その準備段階に必要な項目も含まれています。皆様の受入体制のチェックにもご活用ください。

準備

01

地域の特徴を示す 写真を用意しよう

受入先に選んでもらうために他地域との違いは必ず求められますが、言葉で違いを示すだけでなく写真で伝えられることが理想です。体験コンテンツの写真に加えて、地域の特徴を伝える写真を用意しておくことをお勧めします。さらに動画を準備できれば、受入の雰囲気も伝わるため、商談会で相手の心を掴むのに最適です。



準備

02

学校交流を含む モデルコースを用意しよう

台湾からの教育旅行を受け入れる場合、学校交流は必須です。そして、学校交流の内容に学校関係者は大きな関心を持っています。一番自信のあるモデルコースをまず用意し、そのコースを基本的に「ご要望に応じて変更できる」と説明する方がよいでしょう。

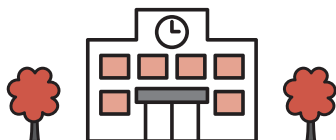


準備

03

周囲の学校と 連携を深めよう

学校交流の内容を商談会で議論するためには、周囲の学校と事前に協議しておく必要があります。時期、内容、拘束できる時間等は、各学校の方針によって様々。受け入れに協力してもらいたい学校には、事前に学校交流の意義を伝えるとともに、普段から学校との連携を深めるような取り組みをされることをお勧めします。



準備

04

お問合せフォームでは 書いて欲しいことを例示しよう

面識のない相手に電話やメールで問い合わせるのは勇気がいるものです。自由記述の問合せフォームも同様です。問合せ時に教えてほしいことを例示する、お問い合わせフォームに項目毎の記入欄を用意する等によって、このハードルを少し下げることができます。



1 地域のことを何も知らない と思って説明しよう

インバウンドの受入では、日本のこと、地域のことについて、あまり知識がないことが一般的です。農泊地域でよく見られる紹介文では、地名や歴史、特産品等の固有名詞が使われますが、世界的に有名なケース以外では価値が伝わりません。固有名詞抜きで地域の特徴や魅力を伝えられないか一度検討してみたいかがでしょうか。

3 翻訳ツールを活用しよう

商談のように自分と相手が交互に話すケースでは、翻訳アプリやポケットク等のツールがとても役に立ちます。たとえば、こちらと相手が1台ずつポケットクを持って話すことによって、通訳なしでも商談することが可能です。

詳細なニュアンスを伝える際には通訳が必要ですが、今後のきっかけ作りのための商談であれば翻訳ツールの活用をご検討ください。

2 相手の要望を聞き出す 時間を確保しよう

商談会では、相手の要望に合致した地域であることをアピールすることが大切です。与えられた時間の半分以上で説明を終えて相手の話を聞く時間に充てる、最初に相手の要望を尋ねる等の工夫で、より密度の高い商談をすることができます。



4 商談中に 次のアクションを決めよう

商談会はきっかけ作りの場であり、その場で成約することは期待できないことがよく分かりました。そして、商談後にもつながり続けるためには、商談中に相手と「次にどちらが何をするのか」を確認することが大切だと認識しました。「ありがとう、いい話が聞けた」だけで終わらせず、次への繋がりを意識して商談することをお勧めします。

2-4 展示会への参加

(1) 予約サイトを準備して、農泊コンテンツを買いやすくしよう！

農泊地域の方々に電話でご連絡したところ、多くの地域が個人客に対応していない、予約サイトがないため展示を断念することになりました。

農泊コンテンツの販売に苦戦している皆様。農泊において販売が進まない大きな原因の一つは、電話やメールでの予約にしか対応しておらず、農泊コンテンツが買いにくいことです。これは、インバウンドでも日本人でも同じです。

リクエスト予約でも、日本語サイトだけでも構いません。自社サイトでも、OTA活用でもSNSからの予約でも構いません。ぜひ予約サイトをご準備ください！

(2) ブース来場者へのノベルティに工夫を！

日本東北遊楽日の来場者の多くは、ノベルティをもらうことに関心がありました。私たちはブースへの入場を促すために農泊コンテンツの紹介名刺と野菜消しゴムを用意しましたが、野菜消しゴムは農泊コンテンツの販売促進には効果がなく、名刺では集客には不十分でした。一緒にブース対応していただいた台湾人通訳の助言では、部屋に置いて長く飾れる・使える物が良いとのこと。例えば、カレンダーやトランプが例として挙げられました。

ブースへの集客と販売促進を両立できるノベルティが大事だと気づかされました。

最後に、日本東北遊楽日に出展した4農泊地域の気づきを紹介します。

(1) 近隣だけでなく広域で連携しよう！

展示会において、来場者から「東北を訪れる予定があり航空券とホテルは予約済み、宿周辺の見どころ・コンテンツはないか」と何度も相談を受けました。紹介した農泊コンテンツに強い興味は示していましたが、来場者の予定に合わせる事ができず断念。

農泊への強い関心を実感するとともに、農泊を売るためには4~6泊を満喫できるような滞在プランが必要だと痛感しました。

台湾人旅行者のニーズを満たすためには1地域だけのコンテンツでは不十分。より広域で連携するエリア農泊を進めていくことが大切だと気づきました。

(2) 販売協力先を作ろう！

展示会だけで販売するのでは、販売量が限られており、広域での連携を維持することも困難です。また農泊地域の中には地域限定の旅行業登録をしているケースが多く、広域を跨ぐ移動手段や宿泊の手配ができません。

この課題を解決するために、農泊滞在プランを継続的に販売してもらえる旅行会社の協力が不可欠だとの認識に至りました。

(3) PRを強化して露出を増やそう！

展示会で農泊コンテンツを紹介した際、『農泊＝農家宅での宿泊』というイメージが台湾でも定着しており、様々なコンテンツを提供する農泊の意味が限定的に捉えられていることを知りました。ブース内で実際にコンテンツを紹介すると、「そんなこともできるのか」と驚かれるケースも見れました。特に、古民家を貸し切る宿は認知度が低い印象を持ちました。

これは台湾だけの話ではなく、日本国内も同様です。農泊の様々な魅力をPRすること、それぞれの地域の露出を増やすことが、農泊全体にとって極めて重要であることを改めて感じました。

コラム

出展した地域による報告会を実施しました

出展した4つの地域による報告会を2月10日に実施しました。そこでは、各地域から出展して気付いた点や台湾の学校や旅行会社から求められたこと等を発表してもらったほか、トークディスカッションでは、「地域内連携と地域間連携」というテーマで、学校との連携作りや地域間での連携事例等体験談をもとにお話してもらいました。台湾から誘客したいけど、何から始めたら良いか分からないという方はもちろん、これからもっと受け入れたいという方もぜひご視聴ください。

> 報告会の様子は以下からご覧ください。

https://youtu.be/6n_ZTGIGF_I



商談会出展で気付いた点

- 台湾の教育局が小中学校の教育旅行助成に積極的なことを知った。同時に、誘致を実現するには、受入側の団体や交流ができる学校の取り組みを記載した資料が必要なこと、校長に向けたトップセールスが必要とわかった。
- 1週間程度の滞在で、環境学習、農業、雪の遊びなどのニーズが高いことが分かった。よって、広域連携できる仕組みが必要と感じた。
- 商談会終了後、登米市内で受け入れ可能な学校リストの作成、宿泊施設や学習施設の概要がわかる資料の作成に着手した。

青森なんぶの達者村 企画提案書

台湾の旅行会社や学校から分かりやすいと好評であった青森なんぶの達者村の企画提案書を一部加工しています。企画提案書を作る際の参考にしてみてください。

南部町 体験型教育旅行

～暮らしながら旅する南部～
海外からの教育旅行向け



「南部らしさ」体験型教育旅行ポイント

- 1、ベースは農業体験と農家民泊。青森の農家暮らしを知る。
- 2、依頼があれば学校交流やホテル泊も可能※①。
- 3、多様な食&宗教対応※②。
- 4、充実したサポート※③。

※②学校交流やホテル泊は人数や時期（盆正月、長期休暇など）によりお受けできないこともあります。

※③一定条件のベジタリアン、ハラル対応も可能（受入実績あり）。

※④英語、韓国語の通訳が南部町役場に在籍。緊急対応も可能。町内に緊急受入可能な総合病院あり。

※④NPO法人青森なんぶの達者村が24時間サポート。

1、農業体験と農家民泊

受入農家25軒！最大受入80人！

小さなまちでエネルギーな農家と青森の農村の暮らしを体験する。



「果物のまち」南部町の農家で果物や野菜の収穫作業を体験!!

・基本は宿泊先の農家で農業体験。宿泊先がホテルなどでも観光農園や農家宅で10人～20人で農業体験も可能。

・さくらんぼ、ブルーベリー、もも、ぶどう、なし、りんご、いちごなど南部町は春夏秋冬さまざまな果物が採れる珍しいまち。

・農家の食卓で郷土料理を一緒につくって一緒に食卓を囲む!!

・生産現場にいる農家は料理上手!!せんべい汁やかけ、田楽など、田舎ならではの郷土料理を農家の食卓で堪能できます。

・宿泊先の農家によってはうたや踊り思わぬ特技に出会うかも。農家によってはハラルやベジタリアン対応も可能。

・農家の団樂に溶け込もう!! 芸達者な農家と日本文化を体験。

・農作業や食事の後は、農家と一緒に日本文化を体験しませんか? 民謡や着付け、書道などさまざまな体験を用意しています。地域ならではの体験ができることも。

・文化や慣習、宗教により握手やハグが禁じられている場合にはあらかじめご相談ください。

1、学校交流やホテル泊

南部町ではホテル泊も可能です。4人部屋で15～40人の受け入れが可能です。また、町内の農業高校や近くの大学との学校交流も人気の一つです。



食事対応できる町内の温泉付きホテルに宿泊も可能。

・バーデパーク、チェリウスといった温泉付きホテルに宿泊も可能です。

・両ホテルともアレルギーはもちろん、ハラル、ベジタリアン対応が可能です。

・館内は英語表記がありスタッフもポケトークを使った会話が可能です。

・農業高校や工業大学などの交流も!!

・南部町内には農業高校があり、学校行事や長期休暇を除けば畑での実習や放課後の部活などを一緒に体験できます。

・近隣の八戸学院大学や八戸工業大学とも連携しており、テーマによってさまざまな学部生と交流可能です。

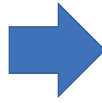
・地域交流も盛ん。農家や町民とスポーツや文化体験。

・高校や大学だけでなく、農家や地域住民とさまざまな交流が可能です。たとえば、冬ならスケートやスノーシュー。ほかにも料理や手芸、野外活動などの体験が可能です。

・時期にもよりますが南部町の郷土芸能や伝統工芸などを体験できることもあります。

2、多様な食 & 宗教対応

単なる日本食だけでなく郷土に受け継がれてきた伝統食も味わおう!! アレルギーや食文化の研修で安心安全な食を提供します。



地元で採れた野菜を中心に郷土料理が並びます。

- ・農家民泊、ホテル泊とも地元で採れた野菜を中心に手作りの料理が並びます。事前にヒアリングにご協力いただき、アレルギーや食文化対応をします。
- ・農家民泊では調理体験がセットです。農家と一緒に郷土料理をつくります。

調理体験も学びの一環。農家の食文化を体験!!

- ・農家民泊では農家ならではの食体験も可能。季節ごとの食を担う農家の手仕事ができます。
- ・時期によっては、餅つき、そば打ち、干し柿づくり、鮭とばづくりなどができます。

アレルギー表記や料理の説明を徹底します。

- ・ホテル泊では食事にアレルギー表記を行います。また、農家民泊でも事前に料理の説明を行います。
- ・食べ物だけでなく、体調やコミュニケーションなどの不安を減らすため、滞在中は役場と連携して24時間サポートします。

モデルコースの説明

これまで実施した内容などを元にモデルコースをいくつかご紹介いたします。

①農家ホームステイ + 農業高校交流

〈1日目〉

13:00 八戸駅集合 バスで南部町へ

13:45 宿泊農家と対面式

14:30 それぞれの農家で農家暮らし体験

〈2日目〉

午 前 農家暮らし体験

13:30 名久井農業高校集合 学校交流

16:00 農家へ帰宅

〈3日目〉

10:00 宿泊農家とお別れ会

11:00 八戸駅

料金一例（1名あたり）

- ・農家民泊2泊3日5食 〇〇〇円＋税
- （農業体験、郷土料理調理体験、対面式&お別れ会運営費）
- ・学校交流 〇〇〇円～＋税
- （交流会運営費、お土産代）

※八戸駅から現地へのバス手配は含まず。



農家では季節ごとの農業体験、せんべい汁や田楽などの郷土料理の調理体験が楽しめます。



南部町の名久井農業高校で模擬授業や部活動交流などが体験可能です。※長期休暇除く。



初めて会う農家と自己紹介をしたり宿泊時の注意事項やアレルギーなどの確認を行います。



初めて会う農家と自己紹介をしたり宿泊時の注意事項やアレルギーなどの確認を行います。

モデルコースの説明

多くの場合、「①農家ホームステイ+農業高校交流」の農業高校交流のパートを別のプログラムに変更して2泊3日のツアーを組んでいます。

農業高校交流プログラムに代わるプログラムとして

- ・日本舞踊体験



着付けをして記念撮影



南部手踊り体験



茶道体験

料金一例（1名あたり）
・着付け 〇〇〇円～
・手踊り体験 〇〇〇円～（10名以上）
・茶道体験 〇〇〇円～（10名以上）
※現地へのバス手配は含まず。

- ・八戸工業大学での震災学習



八戸工業大学の視察



津波の研究装置見学



八戸市の工場で防災講話

料金一例（1名あたり）
・大学視察 〇〇〇円～
・工場視察 〇〇〇円～
※現地へのバス手配は含まず。
※長期休暇や休日は除く。

- ・伝統芸能や伝統工芸の体験があります。



南部裂き織りの見学



南部裂き縫いの体験



南部菱刺し

料金一例（1名あたり）
・南部裂き織り見学 〇〇〇円～
・南部裂き縫い体験 〇〇〇円～
・南部菱刺し体験 〇〇〇円～
※南部町内で実施予定です。

このほかのプログラムや宿泊先



アップルパイづくり（通年）

青森りんごでアップルパイが作れます。
約2時間、〇〇〇円～（4人以上）



書道体験（通年）

書道の先生による書道体験。
約1時間、〇〇〇円～（4人以上）



餅つき体験（9～3月）

杵と臼を使った餅つき体験
約2時間、〇〇〇円～（4人以上）



スイーツづくり体験（通年）

もぎ立ての果物でスイーツづくり体験
約2時間、〇〇〇円～（4人以上）



座禅体験（通年）

南部町の法光寺で座禅体験
約2時間、〇〇〇円～（4人以上）



果物狩り体験（7～11月）

さくらんぼ、ぶどう、もも、なし、りんごなど季節に合わせて。
約2時間、〇〇〇円～



南部町の宿泊施設：パーデパーク

可能人数 ～40人まで
料金1泊2食 〇〇〇円～
温泉、プール、レストラン付

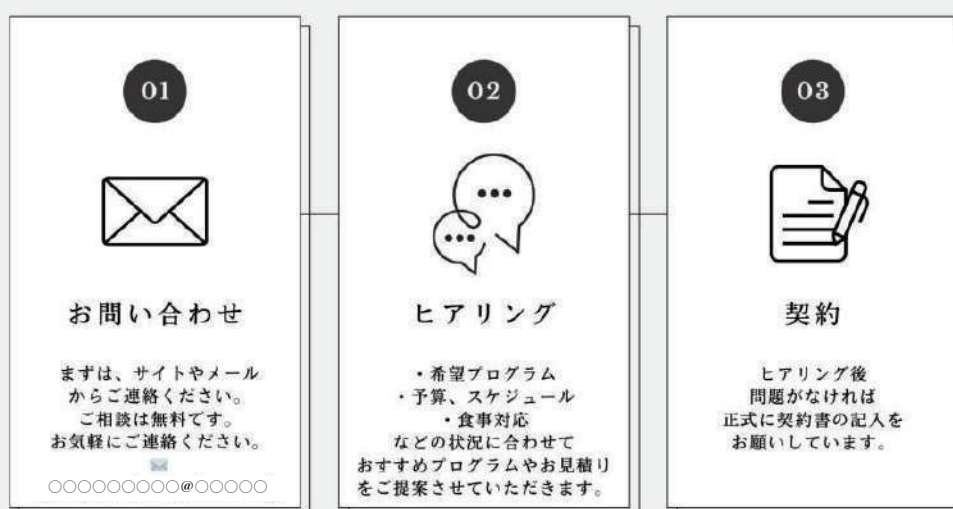


南部町の宿泊施設：チェリウス

可能人数 ～40人まで
料金1泊2食 〇〇〇円～
温泉、プール、レストラン付

ご依頼までの流れ

APPLICATION PROCESS



受入実績

2023年

農家民泊 〇〇〇人（このうち海外 〇人、うち台湾 〇人）

2022年

農家民泊 〇〇〇人（このうち海外 〇人、うち台湾 〇人）

2020年～2022年はコロナ感染症の影響もあり受入低迷。20、21年はほぼ受け入れなし。

2019年

農家民泊 〇〇〇人（このうち海外 〇人、うち台湾 〇人）

暮らしながら
旅する南部





2025年2月発行

[編集・発行]

一般社団法人 全国農協観光協会

〒101-0021

東京都千代田区外神田1-16-8

GEEKS AKIHABARA 4階

TEL 03-5297-0323

E-mail zennoukan@i-znk.jp